

◆関連事業

＊講演会

①本展監修者・千足伸行氏（広島県立美術館館長）
日時：12月9日（土）14：00－15：30（開場 13：30）
申込締切：11月24日（金）必着

②イギリス美術研究者・荒川裕子氏（法政大学教授）
日時：1月13日（土）14：00－15：30（開場 13：30）
申込締切：12月22日（金）必着

いずれも
会場：当館多目的室 参加料：無料
定員：70名（応募多数の場合は抽選）

講演会申込方法
当館 HP 申込フォーム（www.shizubi.jp）または往復はがきにて。
1 件につき 4 名様まで。
※往復はがき記載事項
①催事名、催事日 ②氏名（参加人数分） ③年齢 ④住所（郵便番号から） ⑤電話番号、返信面に宛先を記入の上、静岡市美術館まで。（抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。）

＊コンサート

静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業
キニナルスキニナルプロジェクト 静岡市文化振興財団
静岡室内楽フェスティバル2017
「フルートとピアノで聴く めくるめくフランスの風景」
日時：11月26日（日）14：00 開演（開場 13：30）
会場：当館多目的室 定員：70名
出演：古川はるな（フルート）、平井陽子（ピアノ）
曲目：G. ビゼー：《アルルの女》op.23 より メヌエット、
J. ムーケ：フルート・ソナタ《パンの笛》ほか
参加料：1,000 円＜チケット制＞
※9月30日（土）より当館受付および静岡音楽館 AOI 受付にて販売
（定員になり次第販売終了、お電話での予約はできません。）
※未就学児入場不可
主催：静岡市美術館 企画・制作：静岡音楽館 AOI

＊当館学芸員によるギャラリートーク

日時：12月16日（土）、1月20日（土）
いずれも 14：00－（各回 40 分程度）
参加料：無料（要観覧券）
事前申込不要、当日受付前にお集まり下さい。

Shizubi シネマアワー vol.21

新しい表現を求めて
－ターナーとセザンヌ

①『ターナー、光に愛を求めて』
（マイク・リー監督 / 2014 年 / イギリス・フランス・ドイツ / 150 分）
日時：1月6日（土）14：00－（開場 13：30）

②『セザンヌと過ごした時間』
（ダニエル・トンプソン監督 / 2016 年 / フランス / 114 分）
日時：1月7日（日）14：00－（開場 13：30）

①②いずれも
会場：多目的室 ※簡易の映像設備での上映になります。
参加料：500 円（チケット制）
チケット販売：12月1日（金）より
静岡市美術館受付にて販売（定員になり次第販売終了）
定員：各回 70 名
企画協力：（株）サールナートホール

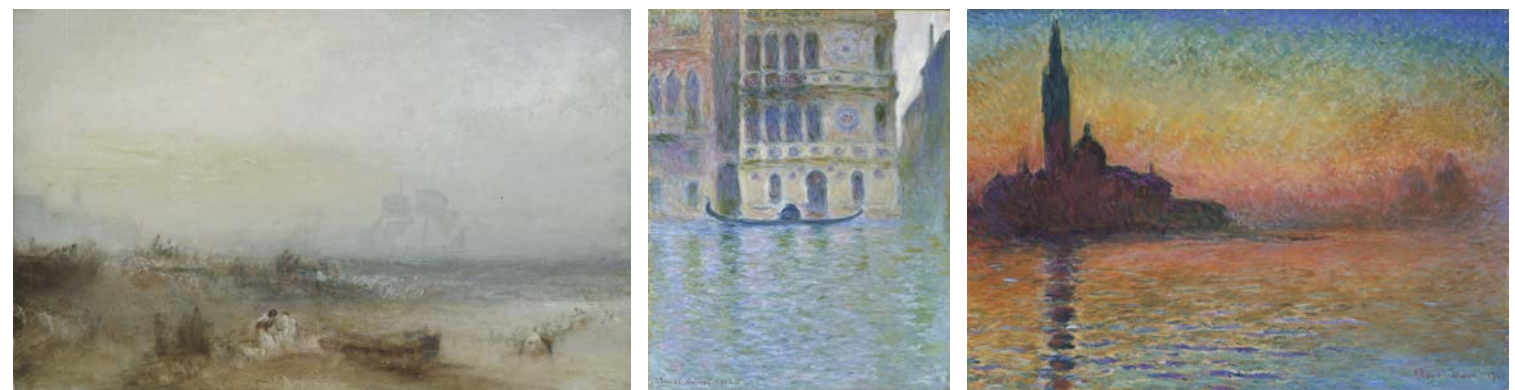


小さな子ども達のためのアート体験プログラム。
保護者の方は展覧会をご覧ください。

日時：1月20日（土） ①10：30－12：00
②14：00－15：30
対象：2 歳以上の未就学児 各回 10 名
会場：ワークショップ室
参加料：子ども 1 人につき 500 円（保護者は要観覧券）
申込締切：1月5日（金）必着
※申込方法：当館 HP 申込フォーム（www.shizubi.jp）
または官製はがきにて。

＜官製はがき記載事項＞希望時間・子どもの名前・参加人数・性別・年齢（月齢まで）・保護者の氏名・子どもとの続柄・住所・電話（緊急連絡先）を明記の上、静岡市美術館まで。（抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。）

ターナーから ウェールズ国立美術館所蔵
モネへ



英国・ウェールズの中心都市カーディフにあるウェールズ国立美術館は、1907 年に設立されました。同館は、ターナーやコンスタブルら英国の巨匠はもとより、ミレーやコロー、マネ、モネ、ピサロ、シスレー、ルノワールなどの優れたフランス近代美術のコレクションでも知られます。本展は、同館のコレクションを精選した約 70 点により、19 世紀から 20 世紀に至る英仏両国の美術の変遷をたどります。印象派のモネやピサロは、普仏戦争の戦禍を避けるため滞在したロンドンで、ターナーの作品にふれ、非常に感銘を受けたといわれています。一方、19 世紀末から 20 世紀初めのイギリスの若い画家たちは、フランスの印象派に影響を受けた作品を描き、自国の美術に新しい風を吹き込みました。英仏の美術が海峡を越えて行き来していた様子を、知られざる名画の数々で是非ご覧ください。

平成 29（2017）年 平成 30（2018）年
11 月 23 日（木・祝）－1 月 28 日（日）^{（54 日間）}
休館日：毎週月曜日（ただし 1 月 8 日は開館、翌 9 日（火）休館）、12 月 28 日（木）－1 月 1 日（月・祝）
※新年は 1 月 2 日（火）より開館いたします。

開館時間：10:00－19:00（展示室入場は閉館の 30 分前まで）
観覧料：一般 1,200（1,000）円、大高生・70 歳以上 800（600）円 中学生以下無料
＊（ ）内は前売および当日に限り 20 名以上の団体料金 ＊障害者手帳等をご持参の方および介助者原則 1 名は無料
＊前売券：9 月 30 日（土）から 11 月 22 日（水）まで販売 ＊前売券取扱場所：静岡市美術館、チケットぴあ、ローソンチケット、セブンチケット、谷島屋マークイズ静岡店、戸田書店静岡本店、戸田書店城北店、MARUZEN& ジュンク堂書店新静岡店、中日新聞販売店（一部店舗除く）
＊お得な一般前売ペア割チケット 2 枚 1 組 1,800 円 取扱場所：静岡市美術館、チケットぴあ、ローソンチケット、セブンチケット
※当日ペア割チケットの販売はございません。
主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団、テレビ静岡、中日新聞東海本社
後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、ブリティッシュ・カウンシル、中日ショッパー
企画協力：ホワイトインターナショナル

＜作品画像＞
【左】ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー 《難破後の朝》1840 年頃 / 【中】クロード・モネ 《バラツツォ・ダリオ》1908 年 / 【右】クロード・モネ 《サン・ジョルジョ・マッジョーレ、黄昏》1908 年
いずれも ウェールズ国立美術館所蔵 ©National Museum of Wales

静岡市美術館 SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART
〒420-0852 静岡市葵区紺屋町 17-1 葵タワー 3F
tel. 054-273-1515（代表）fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

展覧会担当：小川・山本 info@shizubi.jp

1. ロマン主義 *Romannticism*

19 世紀初頭に生まれた「ロマン主義」の風潮は絵画にも波及し、伝統的な規範を重視するのではなく、個人の感情や価値観に基づいた表現が生まれました。恐怖や絶望、あるいは夢や空想の世界といった、それまで積極的に取り上げられてこなかったものが主題として描かれるようになります。風景画では人に様々な感情を呼び起こし、時に人知を超えた存在となる自然を、畏敬の念を持って描こうとする動きも出てきました。「崇高美」の概念に影響を受けたターナーや、見慣れた風景の中にも天候によってもたらされる情感が異なることを見出したコンスタブルなどがその代表です。フランスでは「ロマン主義」は主に歴史画のジャンルで展開されますが、後の世代のバルビゾン派の風景画にも、ロマン主義の精神を見出すことができます。



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー
《難破後の朝》 1840 年頃



ジョン・コンスタブル
《麦畑の農家》 1817 年



ジャン＝フランソワ・ミレー
《突風》 1871-73 年

2. リアリズム *Realism*

19 世紀中頃になり、近代市民社会の発展によって人々の現実への興味が高まると、同時代の生活や事物を、理想化せずに、ありのままに描くことこそ価値があるとする「リアリズム」（フランス語ではレアリズム）の思想が生まれます。その背景には、描く対象を理想化・様式化しようとする、従来のアカデミズムへの反発もありました。「リアリズム」の画家としては、クールベやミレー、ドーミエなどが知られます。彼らは、それまで絵画のテーマとして主流であった神話や歴史の一場面ではなく、下層階級や地方の無名の人々、農村の労働風景なども積極的にテーマに取り上げ、理想化されていない、社会の真なる姿を描き出そうとしました。



オノレ・ドーミエ
《重荷》 1850-60 年



ジャン＝フランソワ・ミレー
《座る羊飼ひ》 1840-50 年



ギュスターヴ・クールベ
《オルプの水車》 1875 年

3. パリのサロンとロンドンのロイヤル・アカデミー *The Paris Salon and The London Royal Academy*

フランスのアカデミーは、1737 年以降「サロン」と呼ばれるようになる展覧会の開催や、歴史画を頂点とする絵画のヒエラルキー等の美の制度化で、画家たちに大きな影響を与えました。他国でもフランスの例に倣ったアカデミーが設立されます。イギリスの「ロイヤル・アカデミー」もその一つです。しかし 19 世紀中頃から、アカデミーに飽き足らず、新たな表現方法を追求する画家が表れ、「リアリズム」や「印象派」などが生まれました。イギリスでも、アカデミーにおける盛期ルネサンスや古典偏重の教育への反撥から、ロセッティ等により、ラファエロ以前の芸術、すなわち中世や初期ルネサンスに美の規範を求める「ラファエル前派」の運動が展開されました。以降、イギリスの美術は唯美主義的傾向を示す画家や、ホイッスラーのように、特定の主義・運動には属さず独自の表現世界を模索する者など、多様な展開を見せていくようになります。



ジェームズ・ティソ《別離》 1872 年



ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ
《麗しのロザムンド》 1861 年



ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー
《ノクターン - 青と金：サン・マルコ大聖堂、ヴェネツィア》 1880 年

4. 印象派 *The Impressionists*

保守的な「サロン」に対し、より自由に作品を発表したいと考えていたモネやルノワールらは、1874 年にグループ展を開催しました。「印象派」と呼ばれた彼らは、リアリズムの画家たちが行っていた戸外制作を踏まえ、パレットで色を混ぜず、小さな筆触を重ねて画面を構成する方法で、移ろいゆく光や大気の表現を試みました。彼らの作品には、ターナーやコンスタブルからの影響も指摘されています。一方、1883 年にロンドンで開かれた印象派の展覧会は、イギリスで印象派を広めるきっかけの一つとなり、また若い画家たちを刺激しました。1886 年には印象派に影響を受け、ロイヤル・アカデミーに反発する画家たちによって「ニュー・イングリッシュ・アート・クラブ」が設立、さらに 1880 年代終りには、より前衛的な表現を求めた「ロンドン印象派」が結成され、印象派はイギリスでひとつの潮流となっていきます。



クロード・モネ
《サン・ジョルジョ・マッジョーレ、黄昏》 1908 年



ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《会話》 1912 年



ジョージ・クラウセン
《マリアニーナ》 1878 年

5. ポスト印象派とその後 *Post-Impressionism and after*

1880 年頃になると、印象派は古典主義的あるいは象徴主義的な傾向、科学的な色彩理論の応用など多様な展開を見せるようになります。「ポスト印象派」は、印象派を超越しようとしたスーラやシニャック、ゴッホやゴーギャン、セザンヌなどの画家を総称して指すもので、彼らの間に共通する様式があったわけではありません。20 世紀になると、絵画の変革はさらに推し進められ、対象の固有色を否定した強烈な色彩や大きく自由なタッチで平面的な画面を作りだした、ヴラマンク、ドランの「フォーヴィスム」など、より前衛的な表現が生まれました。ウェルズにもこうした新しい表現に影響を受けた画家が次々と登場し、オーガスタス・ジョンやジェイムス・ディクソン・イニスなどは、フランスの最新の動向を採り入れた作品を発表しました。



ポール・セザンヌ
《飛び込む人》 1866-70 年



ポール・シニャック
《サントロベ》 1918 年



オトン・フリエス
《ラ・シオタ》 1907 年

本展のポイント

- ①英国・ウェールズ国立美術館の所蔵品をまとまって紹介する、**約 20 年ぶりの展覧会**！
- ②**19 世紀から 20 世紀初頭の英仏美術の発展の様子**を紹介。**ターナー、コンスタブル、ロセッティ、モネ、ルノワール**など、両国の巨匠たちの競演をお楽しみください。
- ③油彩以外にも**セザンヌ**や**シニャック**など、画家の筆使いをダイレクトに伝える貴重な**水彩 16 点**を展示。**総出品数 73 点**。
- ④**東京・首都圏以北での開催はありません！**お見逃しなく！